

伸び悩みVB 商議所が支援

近畿の商工会議所がベンチャー企業（VB）の経営支援を拡大している。京都商工会議所は創業して四程度程度の経営者を対象にした研究会を発足させたほか、大阪商工会議所も既存企業の経営者を後押しする取り組みを始めた。VBの発掘、起業まで力を入れてきたが、起業数が増える中、経営にも目を配り、地域経済の担い手に育てる。

京都商工会議所がこのほど発足させたのは「C

京都商工会議所の「CCI起業家研究会」ではマーケティングをテーマに取り上げた



「C」起業家研究会」。起業したものの思うように業績が伸びないといった悩みを抱える経営者ら、互いに交流できる場を設けて、問題解決の手がかりをつかんでもらおうという試みだ。研究会への登録料や参加費は無料。研究会後の交流会は実費程度を負担してもらおう。同じような

「創業」から「育成」へ

環境にある経営者を集めるため、参加対象は二〇〇〇年四月以降に創業した経営者に限定したが、登録者数は予想を上回る六十四人に達した。

神戸商工会議所も十一月、創業間もない経営者を対象にしたビジネス交流会を開く。

同会議所が一九九九年度に起業家養成を狙って始めた「KCCI創業塾」が五期目を迎えるのを機に、塾を卒業して創業した経営者らにビジネスチャンスを広げる機会を提供する。

各商工会議所の新たなベンチャー支援策は、起業家発掘から一歩進み、経験の浅い経営者を活躍へ向けバックアップしようという取り組みだ。身だが、ベンチャー企業が

成功事例作り重視

近などところで起業の成功事例が増えれば、後に続く起業家の発掘や育成にも弾みがつくなどの相乗効果も期待できそう

起業者発掘 相乗効果狙う

がけるカスネット（京都市）の植木力社長は京都商工会議所の研究会について「どの経営者も同じような悩みを抱えているが、社内では話にくいことも多い。創業して間もない経営者が顔を合わせる交流会の場はなかなかないので、貴重な機会だ」と話している。

「見込みあり」と判断すると、塾のメンバーは、技術提携や販路開拓に役立つ人脈を紹介するなど具体的な経営支援策を提供する仕組み。

十月初めに開いた三次面談には二者が臨んだが、両件とも結論は出ず次回以降への持ち越しになった。